

# ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 15 2016年12月13日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

## 釧路管内キャラバン(第2弾)

### 厚岸町訪問(11月11日)

釧路管内キャラバンの2日目、道教組の新保副委員長と道高教組の菱木事務局次長の2名で厚岸町を訪問しました。



高橋教育長からは、「少子化が進む中、学校統廃合について地域・保護者の声を聞きながら

も、統合やむなしの状況があります。平成19年から4校がなくなりました。小・中・高の先生方の交流を行って交流を図ろうとしています。地元の翔洋高校は現在2間口で、普通科と海洋資源化があります。釧路の高校へ通う子も多く、翔洋高校へ通う地元の子が50%を切ってしまった。翔洋高校へ通う他市町村からの子どもには、通学補助を措置しています。小学生まで医療費は無料にして子育て支援を行っています。特別支援教育の支援員確保が大変で、4名に対し3名しか確保できていません。厚岸は漁業の町でもありまして、後継者は今のところ一定数います」と話していただきました。

私たちからは、ゆきとどいた教育の趣旨を説明し、教育条件整備のために北海道や国に要求している内容に共感していただきました。

### 浜中町訪問(11月11日)



浜中町では、内村教育長と懇談ができました。教育長から「現在小学校5校、中学

校4校があり、霧多布高校には90数名が通っています。高校を卒業すると半分以上が釧路など町外に出てしまいます。浜中の歴史・文化・産業を学ぶ「浜中学」を初めて3年が経ちました。高校3年生になったら、海外交流に行ってもプレゼンができるように学んでいます。子どもたちの自己肯定感が足りないので、自己肯定感を育てたい。故郷を大事にすること、酪農や漁業などについても教育したい。地域でしっかり育てていくこと。バランスのとれた人格形成をすすめたい。中学校にはバス2台を常駐させ、津波の時はバスで避難します」と語ってくれました。

浜中町は低地が多く、バスで避難しないと高台にたどり着けないための措置です。かなり考えた末の避難準備だと思いました。

### 弟子屈町訪問(11月11日)

小林教育長と懇談しました。教育長から「弟子屈高校は統廃合の対象になっています。高校がなくなると、経済的問題(ダメージ)も大きく、都会の高校だけ残し、田舎の高校をなくしていいのでしょうか。全国学力テストは、全道で94%の市町村が結果を公表しています。道教委から公表するように言われ



ますが、弟子屈町は公表していません。他県は35人学級をすすめているのに、北海道ではすす

んでいない。もっと35人学級をすすめるべきだ。弟子屈は自然の中で学ぶ。教育は町づくりです。弟子屈では、町長が先生方に1年間の教育方針を伝えていきます。地域があって学校があるのです」と熱く語っていただきました。

「ゆきとどいた教育」の趣旨は、教育長も十分理解されていました。